

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年8月9日

【評価実施概要】

事業所番号	1571600319
法人名	社会福祉法人 上越あご福祉会
事業所名	グループホーム新井
所在地	妙高市高柳2丁目6番2号 (電話) 0255-70-6517

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 5月 29日

【情報提供票より】(20年 4月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 7人、非常勤 2人、常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階 建ての 1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,800 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり	1050	円	

(4) 利用者の概要 (20年 5月現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2		5名	
要介護3	3名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	けいなん総合病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム新井は、新興住宅地の一角に、同一法人の経営するケアハウス・デイサービスセンター・ヘルパーステーションの複合施設に隣接して建てられている。木造平屋建ての建て物は木のぬくもりが感じられ、気軽に立ち寄りやすい雰囲気である。リビングには利用者等の手作りの作品が展示され、好みのものに囲まれて居心地よく過ごせる空間となっている。
市街地にあるが交通量も少なく、神社や公園がすぐ隣にあり日常的に散歩を楽しめる環境である。近くには関川が流れ、土手を散歩できるコースもあり、地域の方との交流の機会ともなっている。施設には畑もあり、春から秋は利用者職員と職員とが毎日草取りや農作業を楽しんでおり、季節の野菜が毎日食卓に上っている。
職員は、利用者が「人」としてその人らしく生きることを大切に、利用者が穏やかに暮らせるよう支援している。研修等の自己研鑽にも努めている。また、利用者の支援には、日中は看護師が関わり、家族を通してそれぞれのかかりつけ医の連携が図られており、利用者や家族の安心につながっている。地域との積極的な交流にも努め、地域や保育園の行事に参加したり、複合施設全体で行事を催し、地域へも案内している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価結果を踏まえて、具体的な改善に取り組んだ。「理念の啓発」では、広報紙を年2回発行して地域に回覧し、ホームの理念や実践を伝えている。「玄関周り」は木のぬくもりや温かみの感じられる手作りの大きな表札・ベンチ・花鉢が配置され、居心地の良い空間づくりを工夫している。「緊急時の対応」として、応急手当・救急救命の研修に継続して取り組んでいる。「栄養摂取状況の把握」では、栄養士から月1回の栄養指導を受け、利用者の体調管理に繋げている。「マニュアル」については、見直しを複合施設全体で行なっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>あらかじめ自己評価表を職員全員が目を通し、自分の担当は特に重点的に評価を行い、会議で全員が意見を交換し、管理者と計画作成者が記入に取り組んだ。項目ごとに評価することにより日常の振り返りができた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議には、民生委員や地域代表者、市職員が参加しており、地域の情報交換の場ともなっている。利用者の様子やホームの行事、取り組みを報告し、多様な意見を聞くように心がけている。評価についても報告し、意見を頂いて、運営に活かしている。妙高市とは、電話連絡等で情報交換したり指導を仰げる関係が作られている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の通院等のため家族が定期的にホームに来院しており、その機会に、利用者本人の様子を伝えたり、家族の思いを聴いたり相談に応じたりしている。また、ホーム便りを年4回、金銭出納帳を年2回定期的に郵送し、家族に情報を伝えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは新興住宅地の一角にあり、毎日の散歩の際に地域の方と声をかけあったり、日陰になる玄関先で休憩をさせてもらったりと、地域の人たちと自然な交流がなされている。町内会や老人会との関わりを持ち、地域行事へ積極的に参加することで地域との連携を深めている。ホームの避難訓練や地域の避難訓練を通じて自警消防団からの協力も得ている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人の尊厳を大切にするという理念が明示され、年間の事業計画には、理念をもとにしたホームの運営方針が反映されている。理念が職員に浸透するよう、玄関や休憩室など随所に掲示されている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回～2回実施する会議では、理念を職員全員で唱和し、意識している。理念に基づき、日々利用者の思いを大切にすることを努めている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	盆と暮れの年2回、写真入りの広報誌を地域に回覧し、ホームの理念や活動への理解の浸透に努めている。ホームの玄関のわかりやすい場所に理念を掲示し、家族や来訪者への周知に努めている。		
2. 地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	賽の神や夏祭り等の町内行事に参加したり、避難訓練や複合施設の納涼祭の案内を地域に発信し、交流に努めている。日々の散歩や畑仕事を通して交流を図っており、散歩時に玄関先で休憩させてもらったり、花を頂いたり自然な関わりが生まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価に取り組み、日々のケアの振り返りができた。全員出席の会議で評価項目ごとに意見交換を行い、職員からは積極的な意見が出された。評価で見いだされた改善課題についても、改善に向けて具体的な取り組みをしている。		
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や利用者家族、地域代表、市職員が参加しており、情報交換の場となっている。利用者の様子やグループホームの行事、取り組みを理解してもらい多様な意見を聞くように心がけている。評価についても報告し、意見を頂き取り入れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の健康福祉課とは密に連絡を取り合い、ホームの現状などを伝えて助言を受けるなど、協力して質の向上に努めている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については複合施設全体で研修会を行ない、理解を深めた。また、研修会資料を閲覧できるようにして、さらなる意識の啓発に努めている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や、受診の付き添いのため家族が来訪した際に、利用者の状況を報告したり、家族からの相談に応じている。また、年4回ホーム便り「てづくり」を送付している。金銭管理については、年2回金銭出納帳を家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談を受け付ける仕組みを整備し、玄関前に意見箱も設置している。また、運営推進会議や面会時にも、家族や利用者の意見を拾い上げるよう努めている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム全体の質の向上について職員の意識は高く、職員は、会議で話し合いたいことをあらかじめ用意して、積極的に発言している。管理者は職員全体の意見を聞きながら運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は必要最小限にとどめている。新人職員の採用時には、利用者への支援や関係づくりがスムーズに行えるよう、先輩職員が1ヶ月間マンツーマンで1ヶ月指導にあたっている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各マニュアルがファイルで整えてあるが、項目によっては複数のファイルに重複しているものもあり、活用しにくい状況がある。また、感染症や身体拘束などは概要の説明は綴られていたが、ホームでの予防・発生時の実際の対応方法や手順書等の整備が十分ではない。		グループホームとしてサービスの質の確保のため、職員が実際の場面で活用しやすいマニュアル・手順書の作成を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部から、職員の経験年数に応じた内・外部研修の案内があり、職員の希望に応じて勤務調整を行い、参加できるようにしている。参加後は内部で伝達研修を行っている。法人内で組織されている各種委員会が組織でも、活動計画にそって内部研修が行われている。また、資格取得に対しても、実技講習の助言等のバックアップがある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	妙高市の介護保険事業所によるネットワークが組織されており、グループホーム同士の研修会や交流会の活動が行われている。新しく開設されるグループホームの研修生を受け入れお互いに情報交換を行う等、実践的な交流を深めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みは管理者がその都度聞くようにしている。また、理事長や法人本部の職員がホームを訪問する機会に、直接話を聞いてもらうこともできる。職員間の会食会や娯楽の機会なども設け、職員間で何でも言い合える関係を作り、ストレスを軽減するよう努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、管理者と計画作成担当者が利用希望者の自宅へ伺い、アセスメントを行なっている。在宅の担当介護支援専門員と相談しながら、希望があれば、見学を兼ねお茶飲みに来ていただくなど対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から調理や畑について指導していただいたり、職員の話の聞き手役となってもらうこともある。昨年は、利用者と職員と一緒に忘年会を行ない、介護する・されるだけではない、共に過ごし支えあう関係づくりをしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の様子を家族に伝えるとともに、家族の利用者に対する思いやこれまでの苦勞を聴くなどし、利用者とともに支える関係を作っている。家族からはホームのケアにも協力していただいております。受診の付き添いも家族にお願いしている。居室への長期間の宿泊も可能である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを使用し、日々の会話の中から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族からも聞き取りを重ね、把握に努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホーム入居前の生活状況については、家族や、在宅時の担当介護支援専門員から情報を得ている。入居後、馴染みの関係を築きながら、徐々にエピソードや特技などについて本人からお聞きしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の考えや気持ちを、日々の生活のなかで聞き取ったり、表情や会話などから汲み取り、家族にも面会時に相談しながら介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、定期的には6ヶ月に1回、また、状態の変化に合わせて随時、介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望により外出を計画したり、出張理美容師を受け入れて要望に対応している。かかりつけ医への情報提供も密にして医療面での連携を図っており、急変時は職員が付き添い対応している。年1回は複合施設と共に検診車で健康診断を受けられるよう支援している。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医へ家族の付き添いで通院してもらっている。受診後は家族から受診結果を伺い、ホームからも医療機関への情報提供をし、医師から助言を頂くなど、日頃から連携を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでは、家族等の希望や本人の状況により入院継続や他施設入所につながっており、ホームでの看取りは行っていない。今後、希望があれば医療機関や家族と連携をはかり、可能な限りホームで支援できるよう検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄支援の際は、さりげない言葉かけで自然にトイレ誘導を行っている。個人記録等は所定の場所で適切に管理されている。利用者個々人の箸、マグカップ等の名前の明記については、一人ひとりの状態やこだわりを常に検討し、それぞれに応じて対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間など、利用者一人ひとりのこれまでの生活状況やリズムに合わせて対応している。食事前後は皆で「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をするが、ゆっくりと食べる方に合わせて行っていた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ・食器の配膳・座席の案内・お茶の準備・後片付け等を利用者と職員が一緒に行っている。食事利用者と職員が一緒にとり、食器の位置や食べこぼしなどさりげなくサポートしている。畑で収穫されたものも取り入れて季節感を感じられるようにしており、調査時も、畑でとれた苺が食卓に上がり、それを話題にしながら食事を楽しんでいた。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	誘導や声かけをし、トイレで自立した排泄ができるよう支援している。バットの交換が必要な方へも、タイミングやパターンに合わせてさりげなく介助している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活に合わせた職員の勤務体制が整えられ、毎日好きな時間に入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付けや、漬物・干し柿作り、畑での作業、裁縫・編物、貼り絵・きり絵・塗り絵等、本人の特技や関心を引き出し、できることを役割や楽しみごととして支援している。訪問時も、利用者が丹念に蒔の筋取りをしている様子を見せた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて利用者も一緒に、1日おきに食料品の買い物に出かけている。裏の畑には毎日出て作業や草取りをしたり、天気を見て近隣の散歩に積極的に出かけている。その他、地域の行事へ参加したり、おにぎりを持って外出したりしている。		

外部	自己	項 目	(実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成19年度に複合施設全体での身体拘束に関する研修が行われ、その後、ホームでも勉強会を実施して理解を深め、身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝7時半から夕方7時まで鍵はかけておらず、自由に出入り出来る。人の出入りがあるとチャイムが鳴る仕組みになっており、さりげなく職員が見守り声をかけている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在は転倒や無断外出等は事故報告書に記載、ヒヤリハット事例は申し送りノートに記入し、日々のミーティングですぐに検討している。マニュアルが整理され、ヒヤリハット報告書と事故報告書の記入について、複合施設全体で研修を行ったところである。		今後、対応策に対しての評価を実施し、事故防止にさらに活用することを期待したい。また、報告書を再発防止によりいっそう活用できるよう、法人のマニュアルや書式をもとに、検討内容や改善点、対応策への評価等を記載できるよう様式や内容を見直してはどうか。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	毎年1回消防署から指導にきてもらい、救急法の講習を行なっている。実践につなげられるよう、講習後すぐにミーティングを開き、対応方法を職員間で伝え合って理解を深めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	市が行う防災訓練に参加したり、年2回の避難訓練を地域自警消防団や消防署の協力を得て実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回、グループホームで契約した栄養士から献立を見てもらい、栄養バランス等の指導を受けている。また、月1回入居者の体重測定を行い健康管理に留意している。水分についても摂取量を確保できるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは木のぬくもりが感じられ、和風の照明で温かい雰囲気が醸し出されている。床暖房で暖かく快適である。大きくわかりやすいカレンダーや色彩豊かな入居者や職員等の作品が飾られ明るい空間となっている。リビングから、裏の畑が一望できお天気がいい日は桜の木の下でのウッドデッキで過ごすこともできる。玄関周りもベンチが置かれ、季節の花鉢や飾り付けで居心地の良い空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具はすべて入居者の持ち込みである。入居者の必要に応じて家具が配置され、思い出の写真や置物が飾られ、その人らしい居室となっている。必要に応じて手すりも設置されている。</p>		